

葛の葉だより

平成31年3月28日(木)

3年生へ 感謝状と卒業祝いの掲示

2年生は3年生にこれまでの感謝の気持ちを賞状にして伝えよう、と3年生の良いところを「後輩に優しいで賞」「輝いていたで賞」等と表わし和やかな雰囲気の中で感謝状が伝達されました。また、1年生は廊下に「卒業おめでとう」の手書きメッセージを作りました。同じ学び舎で学んだ同志、卒業後も長く付き合っていってほしいと願っています。



贈られた感謝状を手にする3年生 1年生製作メッセージ

3年生企画 謝恩式

教職員一人ひとりに向けた感謝の言葉、花と寄せ書き色紙をいただきました。「旅立ちの日」の歌のプレゼントもあり、3年生からいただいた心温まる時間の中で教職員一同これまでの成長を思い出し、感動しました。



先生方に感謝の気持ちを伝えた3年生

同窓会入会式

佐藤哲郎同窓会長、佐藤伸介PTA会長に来校いただき今年度の同窓会入会式が行われました。今年度の卒業生は卒業台帳番号が4883号から4895号の13名が新しい同窓生となります。新入会員をよろしくお願いいたします。



入会式で誓いの言葉を述べる3年生代表

第72回卒業証書授与式(3月13日)

天候にも恵まれ平成30年度卒業証書授与式を挙行できました。厳粛で清新な気持ちを持ち式に臨む3年生13名、感謝と門出を祝福する気持ちを添えた1・2年生24名、来賓と保護者の皆様、教職員が一堂に会し、感動的な式となりました。



卒業証書を手にし式歌を歌う3年生



3年生担当の先生方・保護者の皆さんと13名の卒業生が喜びの笑顔いっぱい卒業式記念写真

教職員人事異動

平成30年度末の人事異動により、8名の教職員が転出します。保護者、地域の皆様には大変お世話になりました。

4/1より、6名の教職員が転入いたします。

転出 ()は本校勤務年数

教頭 三瓶ゆき 高久小へ(3年)
教諭 藁谷竜一 四倉中へ(4年)(教頭昇任)
教諭 奥山和浩 内郷一中へ(4年)
講師 遠藤弘暁 退職(1年)
講師 ロインズ美枝子 泉中へ(1年)
講師 村上由紀子 植田中へ(3年)
養護教諭 佐川眞美 会津若松市立川南小へ(2年)
主事 宋戸ひとみ 平五小へ(3年)

転入

教頭 岩本和典 平二中より(教頭昇任)
教諭 塩 竜也 玉川中より
教諭 佐藤友昭 植田東中より
教諭 浅尾剛弘 小名浜一中より
講師 山崎裕斗 上遠野中より
主事 町田さゆり (新採用)

【 卒業式 校長式辞 】

(一部省略してあります)

13名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。教職員、在校生全員で皆さんの卒業を心から祝福いたします。学習、部活動、体験活動や町の行事への参加をとおして、額に汗し、友達と一緒に感動の涙を流し、心身を鍛え、自ら未来を切り拓く力を育んだ三年間でした。

3年生は先頭となり今年度入遠野中学校の教育理

念である「背伸びをしないで毎日やるべきことをやる それを続ける」という意味の『^{ありへいそ}在平素』を体現してくれました。木のぬくもりに包まれた同じ学び舎で学んだもの同士、同じ入遠野で育ったもの同士、これから先も学年を越えて人間としてのつながりを大事にしてくれることを願っています。

まもなく平成時代が終わりを迎え、これまで以上に予測がつかない社会、便利な社会になるにつれて、人々の要求は多様化し問題も複雑化してきます。複雑に絡み合ってしまった長い紐を一人の力だけで元に戻すことは容易ではありません。これからの時代を生き抜く皆さんに求められるのは、コミュニケーションを通して、複雑なことを仲間と一緒に解決できる力なのです。血潮みなぎる私たちは人と人とかかわりあって、人間として成長できます。機械ではなく、これから出会う人々と対話し、智慧を出し合い、思いやりを持って具体的に動くことを大事にしてください。

そのためにこれから云う四本の気を心に植えてください。一本目は「元気」です。しっかり食事をとり、運動をし、本を読んで心身ともに健康であることを大事にしていきましょう。二本目は「本気」です。いろいろ困難はあります。しかし本気でやるとおもしろくなり、大抵のことは解決できます。三本目は「根気」です。あきらめないことを気力といいます。一步一步の歩幅は違っても歩むことを止めなければ必ず頂上に着きます。四本目は「勇氣」です。進む勇氣、挑む勇氣、退く勇氣、断る勇氣、どれもみな必要な時があります。カッとなってはいけません。冷静に間をおいて判断してから動きましょう。心に植えた四本の気を、これからの人生の中で生かす大きく育てていってください。

この自然豊かな山河に囲まれた入遠野の地で育った誇りと、家族への感謝を忘れてはなりません。世界史の中に大文字で記されるようになった未曾有の災害から8年が経ちました。震災はそれまでの矛盾をあぶり出し、本当の幸せ、豊かさを考える機会となりました。しかし、東北地方の復興はいまだ道半ばです。これから先の学びをとおして、力をつけ、いわき市、日本あるいは世界のどこにいても共に復興の一端を為していきましょう。日々の生活に迷い疲れたら、不動の往生山を見上げ、または故郷から遠くにいても思い出してください。